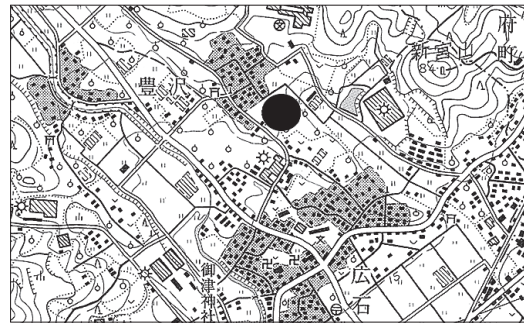


ひろいし
広石散布地 範囲確認調査

所在地 宝飯郡御津町大字広石
調査理由 県道大塚国府線建設工事における事前調査
調査期間 平成11年7月～8月
調査面積 200 m²
担当者 木下 一・松田 訓・武井繁樹



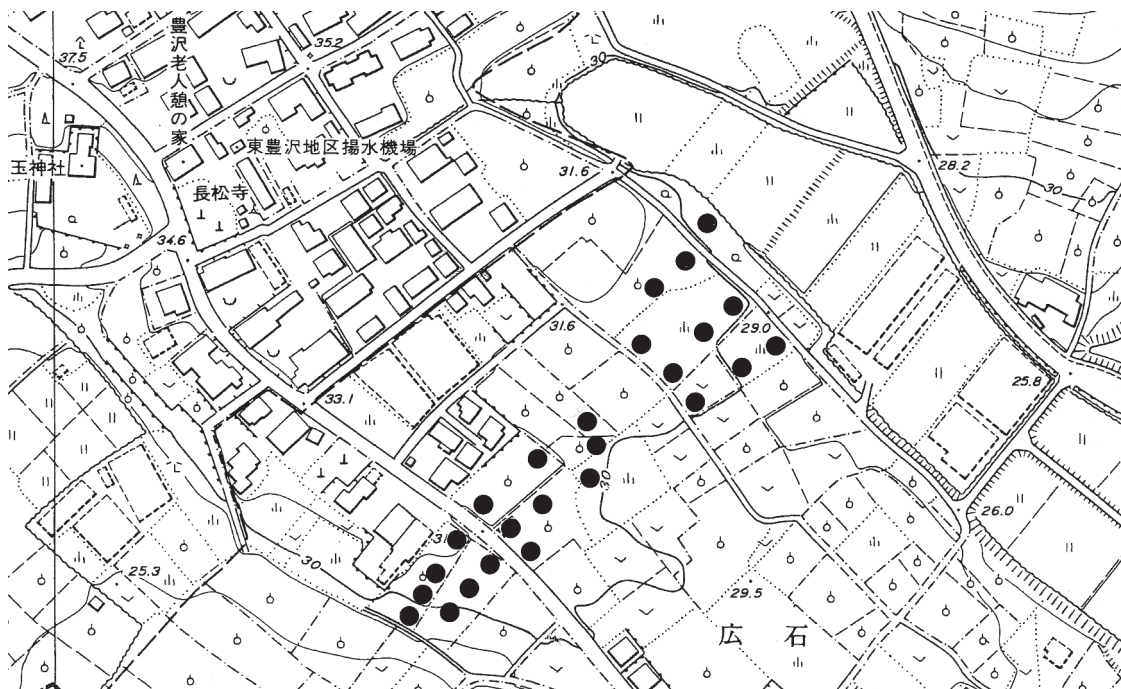
調査地点 (1/2.5万「小坂井」)

調査の経過 発掘調査は、県道大塚国府線建設工事予定地内における事前調査で、愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成11年7月19日から8月11日にかけて範囲確認調査を実施した。調査面積は、200 m²である。

立地と環境 広石散布地は、J R東海道線愛知御津駅より北西約2 kmの、宝飯郡御津町大字広石に位置する。調査地は、北西から南東に向かってゆるやかに下る舌状の高まりと、小河川によって開削された浅い谷によって形成されている。標高は、約29～31 mを測る。調査地の北西には、弥生から古墳時代を主体とする石堂野遺跡、東には扁平鈕式の流水文銅鐸を出土した、広石銅鐸出土地などが近接する。

調査の概要 今回の調査地は、幅約20～45 m、長さ約210 mの道路建設予定地内で、この中に任意でテストトレンチを設定した。各調査地点の層序は、10～20 cmの表土の下ににぶい黄褐色シルトが10～20 cm堆積しており、この下は基盤層であるにぶい赤褐色粘土または黄褐色粘土が認められた。中世以前の遺構と思われるものは、この基盤層を直接掘り込むように検出され、にぶい黄褐色シルト内から掘り込まれているものは、中世以降の遺構と思われる。検出された遺物は、古式土師器を主体とし、須恵器、灰釉系陶器、陶磁器などがわずかに認められた。

(木下 一・松田 訓・武井繁樹)



調査地点位置図 (1:3,000)